令和５年７月９日
淑徳与野中学校
淑徳与野高等学校
校長　里見　裕輔

淑徳与野中学・高等学校　令和４年度　学校評価　報告書

（1）　自己評価

令和４年６月末に全校生徒に対して「授業アンケート」を実施し、その結果を各教科担当者が生徒に報告するとともに、各教科会で結果を分析し、授業に関して評価した。以下は各教科からの『授業アンケート結果報告書』の一部である。

国語：指示や説明の明解さ、時間管理に関してはおおむねよい評価であった。記述式アンケートの結果を見ても、狙っている学力層の生徒からの反応がよく、その点においては十分評価できると思う。

数学：グループ学習を取り入れている学年が増えたこともあり、生徒の考える力に時間をかけがちではあるが、初めて扱う単元は時間をかけて説明を心がけるべきであると考える。

英語：新カリキュラム１年目で新しいテキストを採用したが、ついていけない生徒もいる様子。テキストの再検討、類型毎の進度の調整をする必要がある考える。

理科：高評価を保てている印象である。ただし、「授業の効果」に関しては肯定的な評価が７割程度であり、約３割の生徒が学習効果を実感できない状況がある。特に、受験期に入った３年生にその傾向が強い。入試を間近にして難易度が急に上がったこと、授業のペースが速くなったこと等によるものと考えられるので、これらの実情にどのように対応していくかが今後の課題である。

社会：例年課題であった「効果」について、中学では８割を突破する事が出来た。授業内のワーク(話し合い)において理解が深まっているとの意見も見られるので、主体的な学びを伸ばしていけるように続けていきたい。

保健・体育：毎年の事であるが、時間や場所に制限があるため、運営中心の内容を重視してしまわざるおえないので、効果の部分でなかなか工夫がしづらい状況である。

技術・家庭：全体的には肯定的な評価が多い。実習では熱心に取り組み、達成感を感じている生徒が多いようである。マスク着用の為か、語尾が聞き取りにくいという意見があったので、マイクを使うなどして、後ろの席まで声が届くように留意していきたい。

淑徳の時間：例年通り、どの授業においても高評価を得ており、生徒の期待にも十分応えられていると思われる。本校における教育の一つの柱でもあるので、授業の時間を普段の生活にどのように結び付けていくべきかということをさらに意識していきたい。

＜総括＞

今年度はタブレット端末導入２年目となり、中高１，２学年の生徒は一人一台の端末を授業に大いに活用できるようになった。昨年度からに引き続き、リモート授業はさらに技術的な対応も含め、さらに充実し、効果をあげられていると実感できた。今後は、対面の授業での活用をもっと生かしていけるように研究を続けるようにしていきたい。

（2）　学校関係者評価

1.　学校関係者評価委員会の開催

日　時　　令和４年度も新型コロナウィルス対応のため、全体として集まっての委員会は開催できず、意見をアンケート形式で寄せていただく形となった。

関係者　　淑徳与野中学・高等学校後援会役員１名、高校保護者から 19 名、中学保護者から９名。副校長、教頭、教務部長、生徒指導部長、進路指導部長、事務部長

2.　委員会に寄せられた内容から

今回はアンケート形式による意見の集約という形にはなったが例年より多くの方からの意見を徴することができた。保護者による学校評価においては、おおむね好意的な評価をいただいており、これからも引き続き継続していくべき内容であると考える。以下に、主な意見を挙げる。

- 学校評価アンケートにおいて全体的によい評価が多いことは、淑徳与野の理念や方針に満足している保護者が多いことを意味し、また先生方の日々の熱意溢れるご指導の結果の表れだと理解いたします。先生方のご尽力に心より感謝申し上げます。
- この学校に入学したことで、学業面の伸長はもとより、精神的にも成熟することができ、社会に出た時にも生き抜く力が身に付くことができると期待しています。
- 国際教育にとても力を入れてくださっており、他では経験できない機会がたくさん用意されていると思います。

また、要望としては、コロナ禍の中、保護者間の交流の場がなくなってしまったので学校からの情報提供をもう少し工夫して活発にしていただきたいという意見が昨年に引き続きみられた。さらには防災に関する取り組みや仕組みなどに関する関心が寄せられたことも目新しい点であった。。

（3）　第三者評価

1.　第三者評価の実施について

学校法人高宮学園代々木ゼミナール教育総合研究所に委嘱した。同研究所は令和 4 年 6～7 月にかけて全在校生の保護者に対して「学校評価保護者アンケート」を実施し、その結果を分析して評価した。

2.　評価結果の要約

中学・高等学校とも、本校の学習指導や進路指導に対する期待が高く、より一層の充実を望む声が寄せられた。具体的に項目に分けて要約すると次の通りである。

①　例年同様、高い評価を得ている。
②　学習指導や進路指導について、高い関心が寄せられる中、引き続き好評価を得ている。
③　学校行事について、時節柄、制約がある中、高い評価を得られた。
④　不得意な教科・科目の克服につき、一層の充実を図る必要があることが確認された。